

平成 29 年度 「学校を核とした地域力強化プラン事業」 アンケート調査

< 目 的 >

学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えることや生涯学習社会の実現、地域の教育力の向上をねらいとして、「学校を核とした地域力強化プラン事業」を推進している。

本事業について、本年度の達成状況やこれまでの成果と課題を把握し、今後の事業推進の基礎資料とするため、アンケート調査を行う。

なお、今年度は、地域学校協働活動推進の核となる「地域学校協働本部」および、家庭教育支援への必要性が高まっていることから、今年度より総合推進事業となった「地域における家庭教育支援総合推進事業」について実施する。

< 対象および回収率 >

平成 29 年 11 月 1 日現在、「学校を核とした地域力強化プラン事業」として実施している以下の事業を対象とする。

【地域学校協働本部】

- ① 学校 149 校園（小 93、中 34、幼等 22）
- ② 地域コーディネーター、統括コーディネーター 147 名 ※回収率 96%
- ③ 市町教育委員会 11 市町（対象 11 市町）

【地域における家庭教育支援総合推進事業】

- ① 学校 13 校（小 13）
- ② 家庭教育支援員 15 名 ※家庭教育支援チーム代表者による回答 ※回収率 100%
- ③ 市町教育委員会 7 市町（対象 7 市町）

< 調査結果の活用 >

- ・ 事業評価に使用
- ・ 実践事例集および当課ホームページ「におねっと」にて公表
- ・ 各市町にフィードバック

【 地域学校協働本部 】

<地域学校協働本部の開始年度別本部数(全109本部)>

○平成23年度以前開始本部数 33本部

○平成24～26年度開始本部数 26本部

○平成27年度以降開始本部数 50本部

<平成29年度対象および回収数>

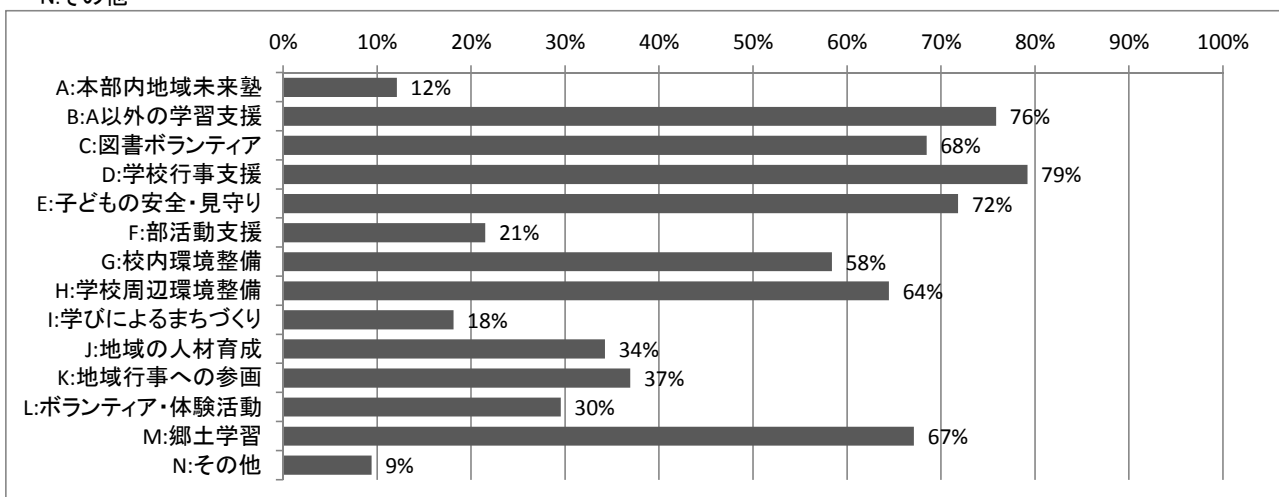
①学校 149校園(小93、中34、幼等22)

②地域コーディネーター、統括コーディネーター147名

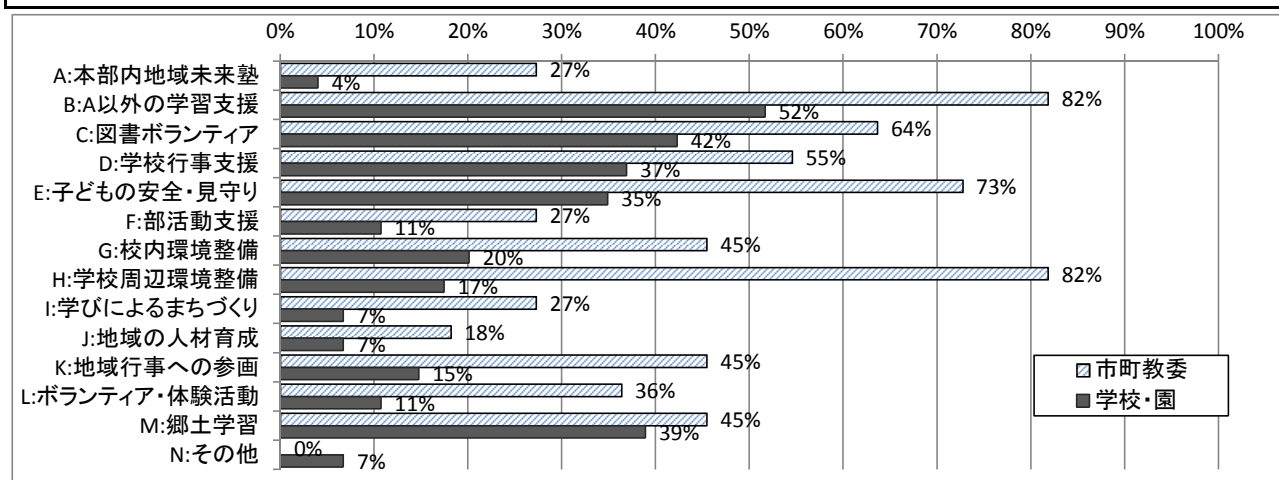
③市町教育委員会11市町

問1-① 本部業で実施した活動内容(複数回答有)

- A:学習支援員を配置した学習支援(本部内地域未来塾)
- B:地域未来塾以外の学習支援(授業補助、学力補充、読み聞かせ等)
- C:図書ボランティア(読書活動支援・図書館環境整備)
- D:学校行事支援
- E:子どもの安全確保、見守り
- F:部活動支援
- G:部活動支援
- H:学校周辺環境整備(地域学校協働清掃活動、花壇整備等)
- I:学びによるまちづくり(地域資源を活用した地域ブランドづくり学習、地域防災マップ作成等)
- J:地域の将来を担う人材の育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育等)
- K:地域行事への参加(地域・学校協働防災訓練、地域の伝統行事への参画等)
- L:ボランティア・体験活動(地域の商店街でのボランティア活動、地域の商店街での職場体験活動等)
- M:郷土学習(郷土史調査学習、地域の自然環境、フィールドワーク)
- N:その他



問1-② 本部事業として、特に重視している活動はどれですか(複数回答有)

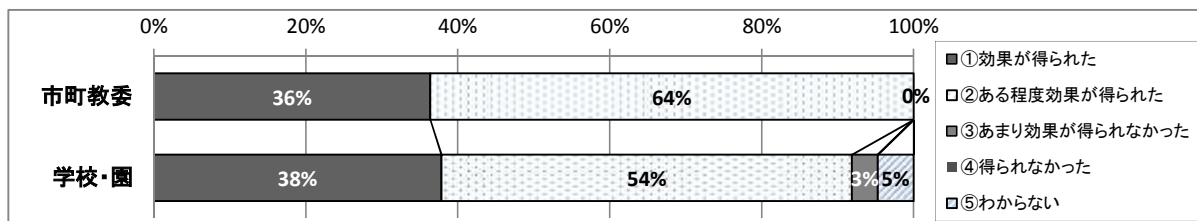


「N:その他」における主な意見(学校・園)

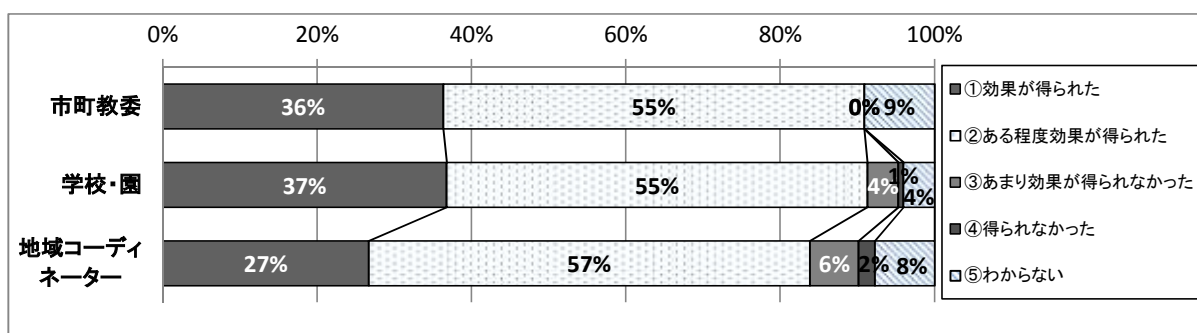
・プール監視支援ボランティア ・ふれあい広場 ・小中連携 ・地域公開講座 ・保育参加 ・クラブ活動 等

問2. 本部事業ではどの程度効果があったと考えていますか。

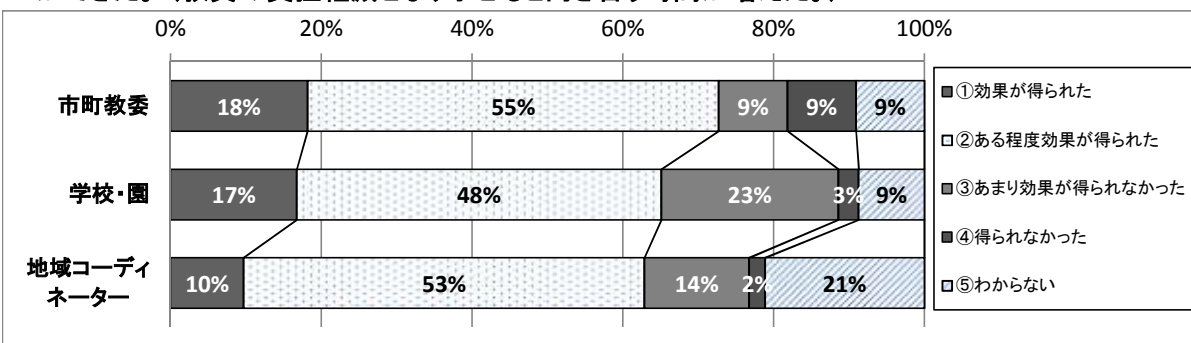
①子どもたちが地域住民と交流することにより、様々な体験や経験の場が増え、学力や規範意識、コミュニケーション能力の向上につながった。



②子どもたちが地域住民と交流することにより、様々な体験や経験の場が増え、地域住民への理解・関心が高まった。



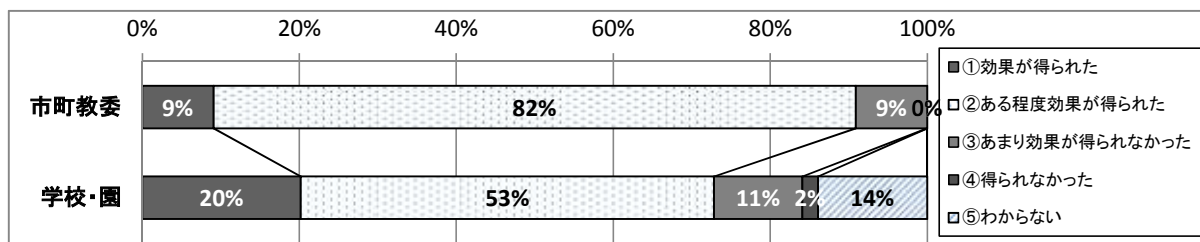
③地域住民が学校と連携・協働することにより、教員が授業や生徒指導などに、より力を注ぐことができた。(教員の負担軽減となり子どもと向き合う時間が増えた。)



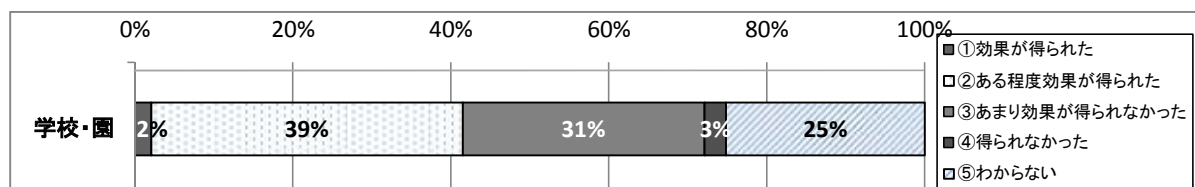
<上記(教員の負担軽減)について具体的な事例や効果について記述 [学校・園]>

- ・教員を目指す本校の卒業生が、授業や定期テスト前の質問教室で学習支援を行った。このことで、担当教員が、支援が必要な生徒に、より時間をかけて関わることができた。
- ・毎日昼休みに、図書ボランティアの方が図書委員とともに図書の貸し出しや返却の作業をしてくださっていて、職員は昼休みを子どもの対応に充てることができています。
- ・地域コーディネーターがサポーター募集のちらし作成や地域の方との連絡や打合せ、当日の接待等、窓口になっていただいたおかげで、連絡・調整が一歩化し、スムーズに計画・運営することができ、担任の負担軽減を図ることができた。
- ・子どもたちへの指導に専念できるという、教師本来の動きがしやすくなった。
- ・図書館ボランティアや九九道場を開催することにより、図書室の環境整備や九九学習チェック等、今まで教師がしていた仕事の軽減につながった。
- ・部活動指導は大変助かった。
- ・日本語の支援を必要とする生徒に対して、補助が入ったことにより、教員が他の生徒に関わる時間が確保された。また、日本語の支援を受けた生徒についても、学習意欲の向上につながった。
- ・校外学習・マラソン大会などで安全面を考慮して、多くの支援が得られた。そのため、教職員の増員をせず、他の学習に回ることができた。

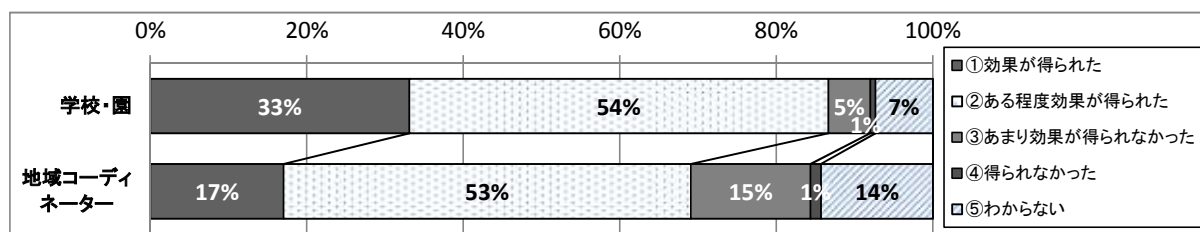
④地域の将来を担う人材の育成を図るとともに、地域住民のつながりを深めることができた。



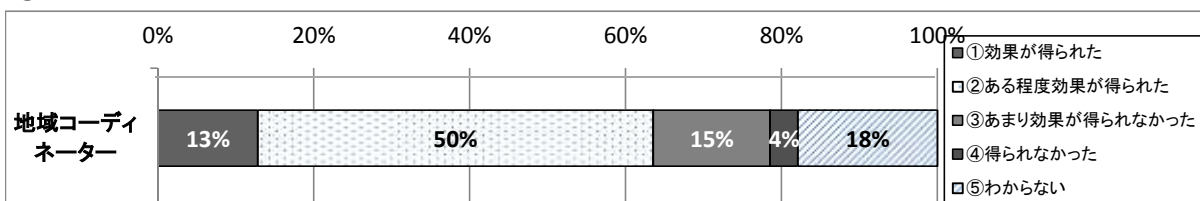
⑤地域住民が学校と連携・協働することにより、生徒指導上の課題の解決につながった。



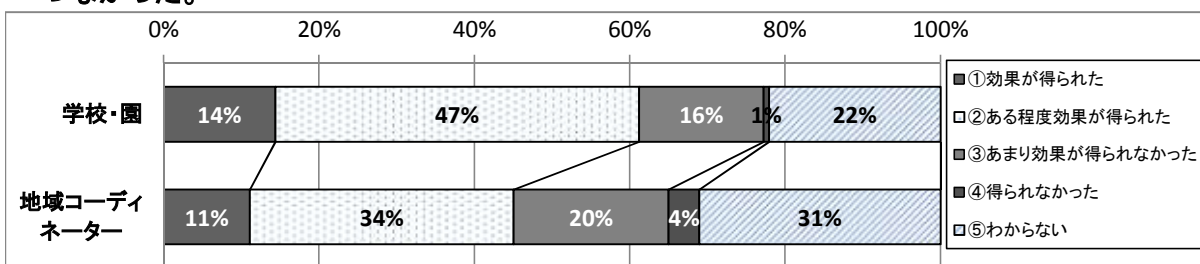
⑥地域住民の学校への関心や参画が高まった。



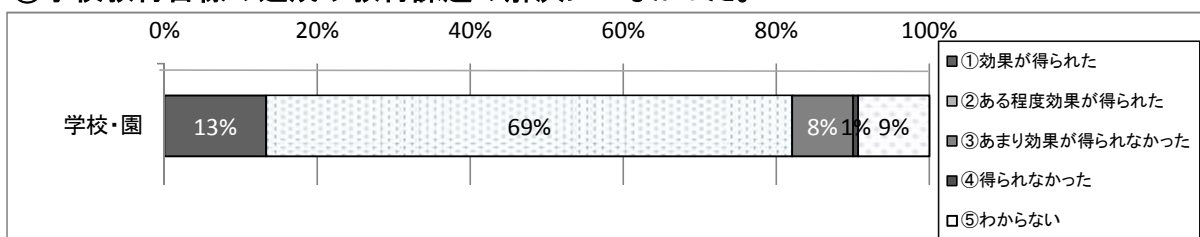
⑦地域住民の生きがいづくりや自己実現につながった。



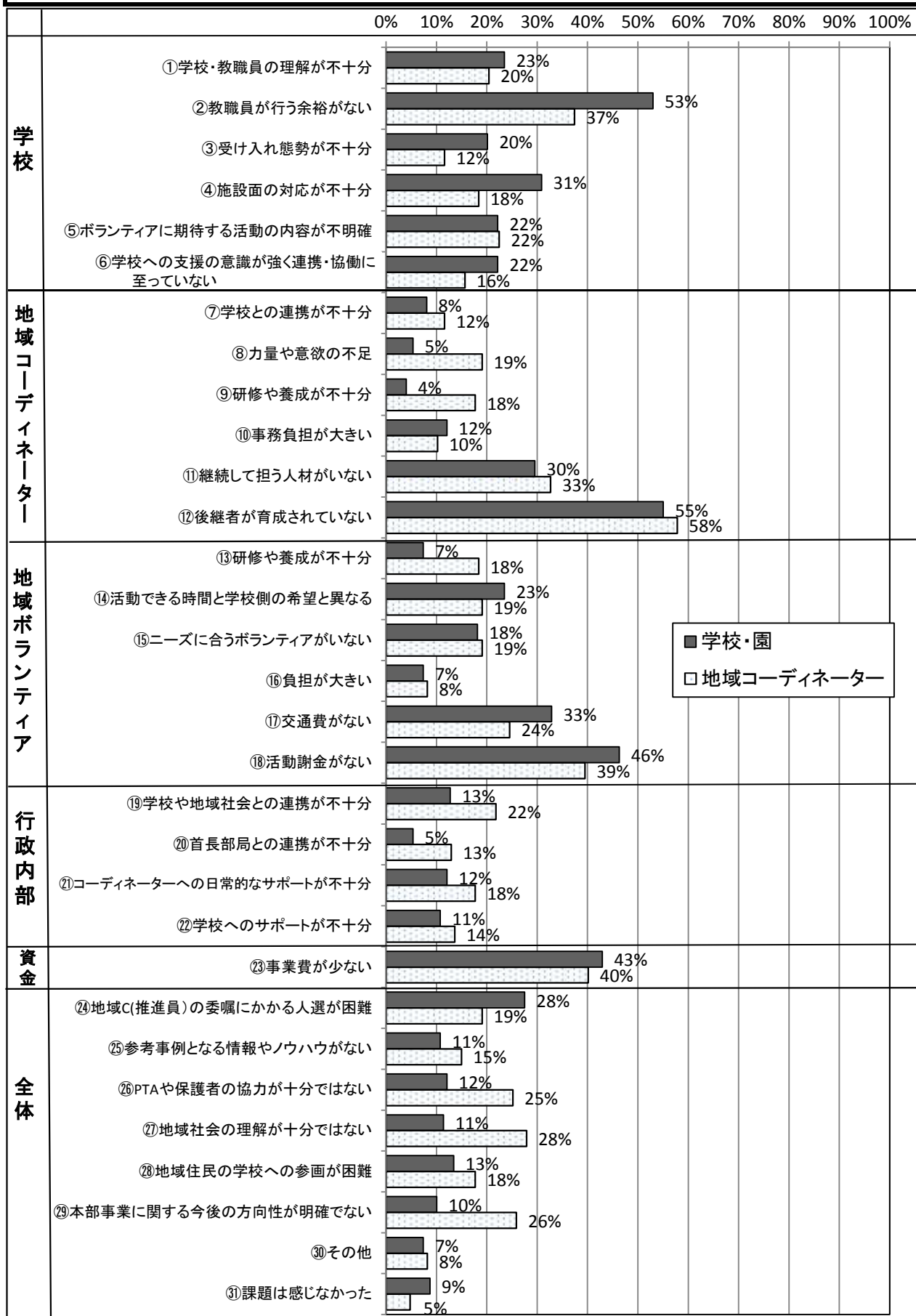
⑧地域住民が学校と連携・協働することにより、地域の教育力が向上し、地域の活性化につながった。



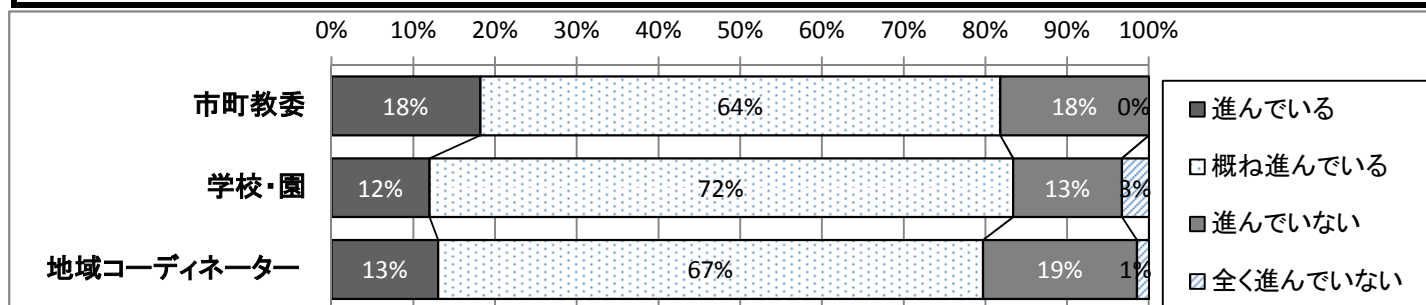
⑨学校教育目標の達成や教育課題の解決につながった。



問3. 本部事業を実施する上で、捉えている課題は何ですか(複数回答)



問4. 地域と学校が目標を共有して行う双方向の連携・協働による本部事業は順調に進みましたか。



自由記述(抜粋) [市町教委]

○進んでいる・概ね進んでいる

- ・平成29年度に市内全小中学校に本部が設置され、各本部の設置年数や地域コーディネーターの経験に応じた取組が進展してきている。
- ・今年初めて地域学校協働活動の取組を始めたが、これまでからも地域と学校との良好な関係が築かれていたことから、ゼロからのスタートではなく、地域の学校理解がある上で事業展開が図れたように感じる。

○進んでいない

- ・本市でコミュニティ・スクールを設置した小学校は、校長先生の積極的な地域への働きかけにより協働活動が推進されている。元々、学校に協力的な地域だったが、委員の皆さんが自覚と責任を持って学校の教育活動に参加すると共に、学校をよりよくするための意見を出したり活動したりしてくださっている。学校からの「地域を頼りにする」姿勢と、地域の方の「学校は地域で支える」という自覚が大切だと思う。コミュニティ・スクールの導入によって地域学校協働活動の質も変わっていくのではと期待している。

自由記述(抜粋) [学校・園]

○進んでいる・概ね進んでいる

- ・以前は、学校への支援意識が大変強く、子どもを育てる意識が弱かったが、学校からの働きかけや学校運営協議会理事会等での話し合いにより、子どもに生きる力を育てる活動として、地域と学校が目標を共有して連携・協働できる活動に少しずつなってきた。
- ・学校を継続的に支援してくださる地域の方々との存在と、意欲的に活動してくださる地域コーディネーターの存在により、双方向での連携・協働が進んでいる。
- ・地域コーディネーターの理解と協力が寄与しているところが大きい。やはり、人材の選出が大きなポイントである。
- ・地域コーディネーターを窓口に、コミュニティセンター、まちづくり協議会の方に相談しながら、地域との連携、協働を進めている。
- ・本部事業が学校単独になった時期から、学校も地域コーディネーターも前年度のことを踏襲するだけでなく、何ができるか、何をしていくと効果があるかなどを考え、少しずつだが自主性が出てきた。その中に学校内にいる教職員でない発想があり、開かれた学校づくりに貢献していると思える。

○進んでいない

- ・学校の支援にボランティアさんに来ていただくことが主で、目標を十分に共有すること等には至っていない。
- ・最近少しずつ変化が見られるが、学校への要望や依存が多く、協力・協働の場が少なかった地域性もあり、まだまだ努力や工夫が必要だと感じている。さらに本部事業に対する学校・教職員の理解も不十分であり、学校として地域本部と連携していくための組織づくりが課題である。

自由記述(抜粋) [地域コーディネーター]

○進んでいる・概ね進んでいる

- ・まだまだ学校の手伝いをしているという方も多い。活動がボランティア個々の生きがい、やりがいとなっているのは地域の活性化という点でよいことで、これからどう連携・協働し、活動を広げていくか関わる人を増やしていくかが課題である。これは、学校(校長先生や教頭先生)の姿勢によるところも大きく、地域はそれを支え発展させていっているように思う。保護者もボランティアとして力を発揮している。
- ・地域の方が学校で見守りや講師を、また行事の支援もしていただいている。中学生は地域の行事にスタッフの一員として活動することで、地域の中でも学習できている。地域の方々も中学生徒の交流を楽しんでくださっている。

○進んでいない

- ・今年度、この事業が始まったばかりであるので、まだ双方向とまではいっていない。とにかく「地域をつなぐ」学校に目を向けてもらう方向に力をいれてきた一年であった。
- ・地域としてまだまだ限られた人材で動いている。高齢化する中で次へのバトンタッチも徐々に進めていく必要は感じている。

【平成29年度地域における家庭教育支援総合推進事業】

＜対象および回収数＞

①実施期日：平成29年11月

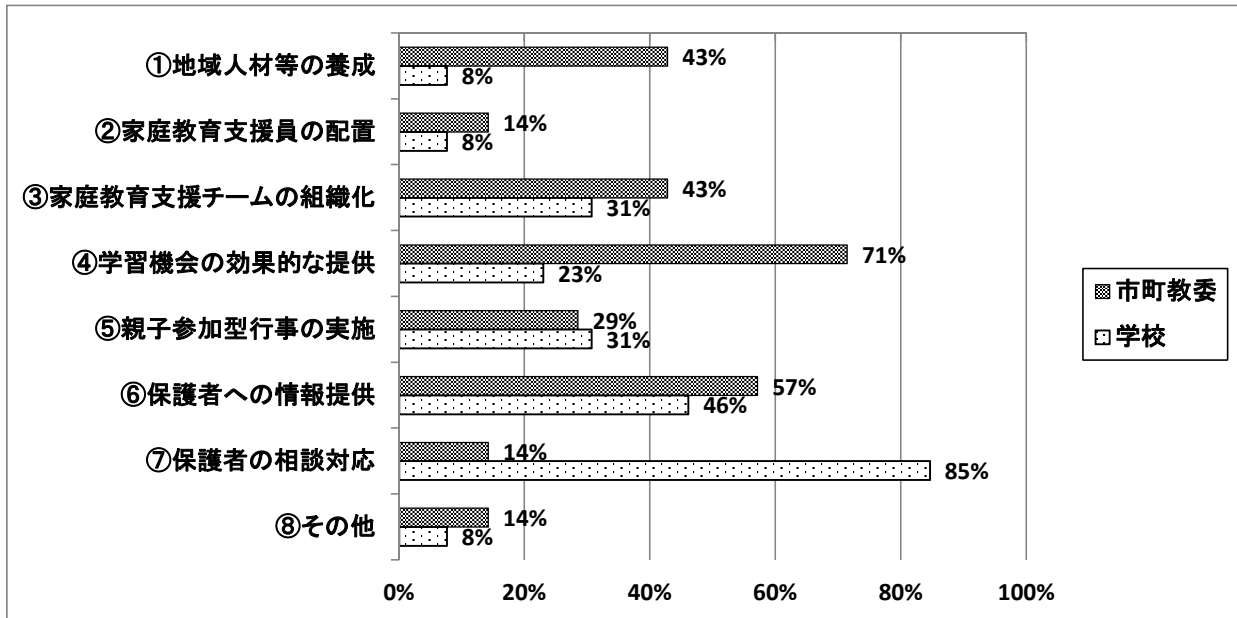
②学校 13校(小 13)

③家庭教育支援員 15名

※家庭教育支援チームは、代表者による回答 100%

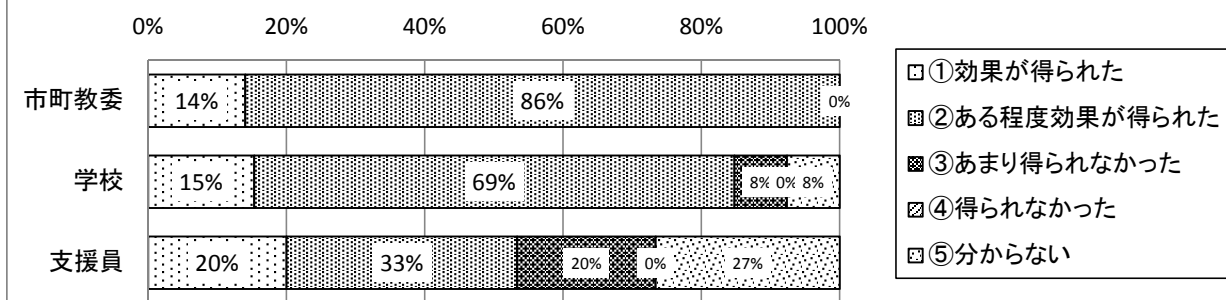
④市町教育委員会(対象7市町)

問1. 家庭教育支援として、特に重視している活動はどれですか。(複数回答)



問2. 家庭教育支援を実施しての効果について

(1) 保護者の子育てに関する悩みの改善



自由記述

【市町教委】

・学校での保護者向けの学習会においては、保護者のニーズに合致したテーマで実施することで、多くの参加を得ることができた。

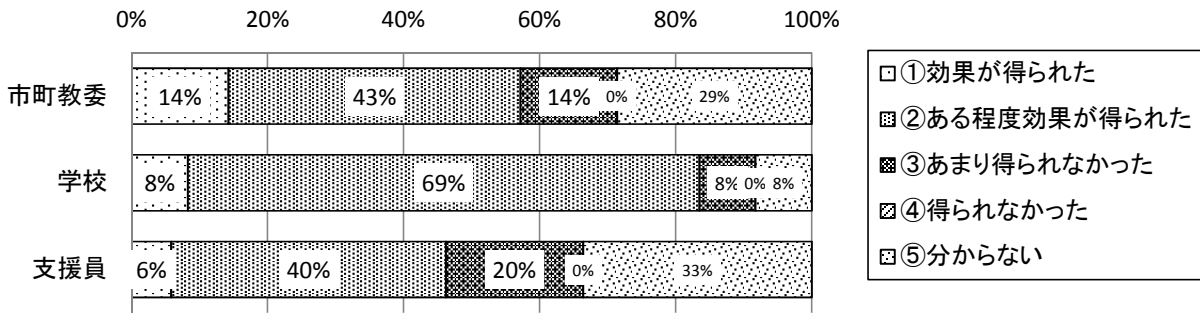
【学校】

・スクール・ソーシャルワーカーに來校してもらい、身近にアドバイスいただき、相談活動が充実してきた。

【家庭教育支援員】

・家庭教育支援員として私も一歩踏み出したところ、1人から2人、3人と悩めるママたちと交流ができるようになりました。気軽にしゃべる場の提供は、重要だと感じています。

(2) 活動をととした保護者間のつながり



自由記述

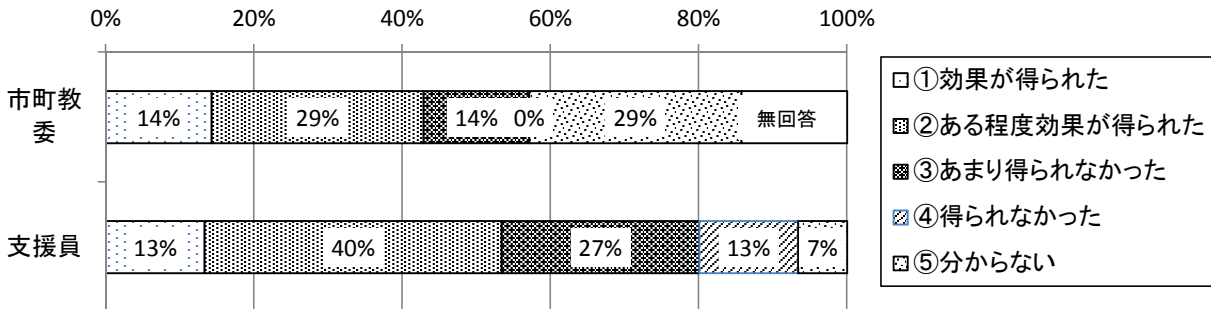
【学校】

・保護者同士のコミュニケーションづくりに効果があった。

【家庭教育支援員】

・サロンに参加することにより、親同士の交流ができた。(ライン交換など)また、学習支援に入ることにより、先生方や子どもたちとのつながりができた。

(3) 保護者と家庭教育支援員とのつながり

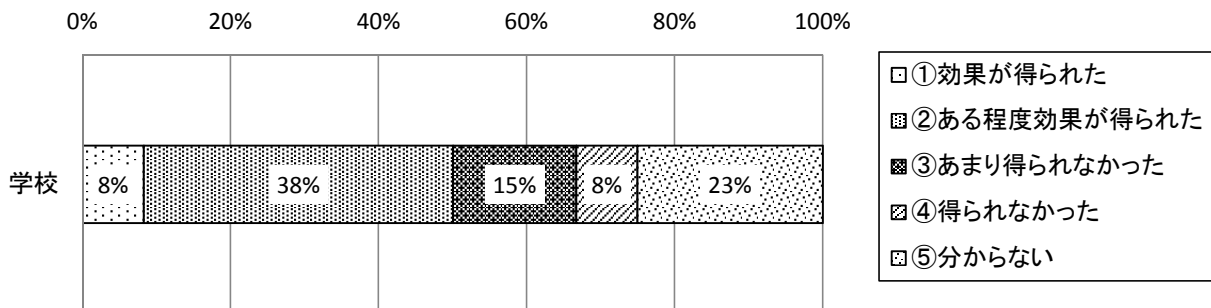


自由記述

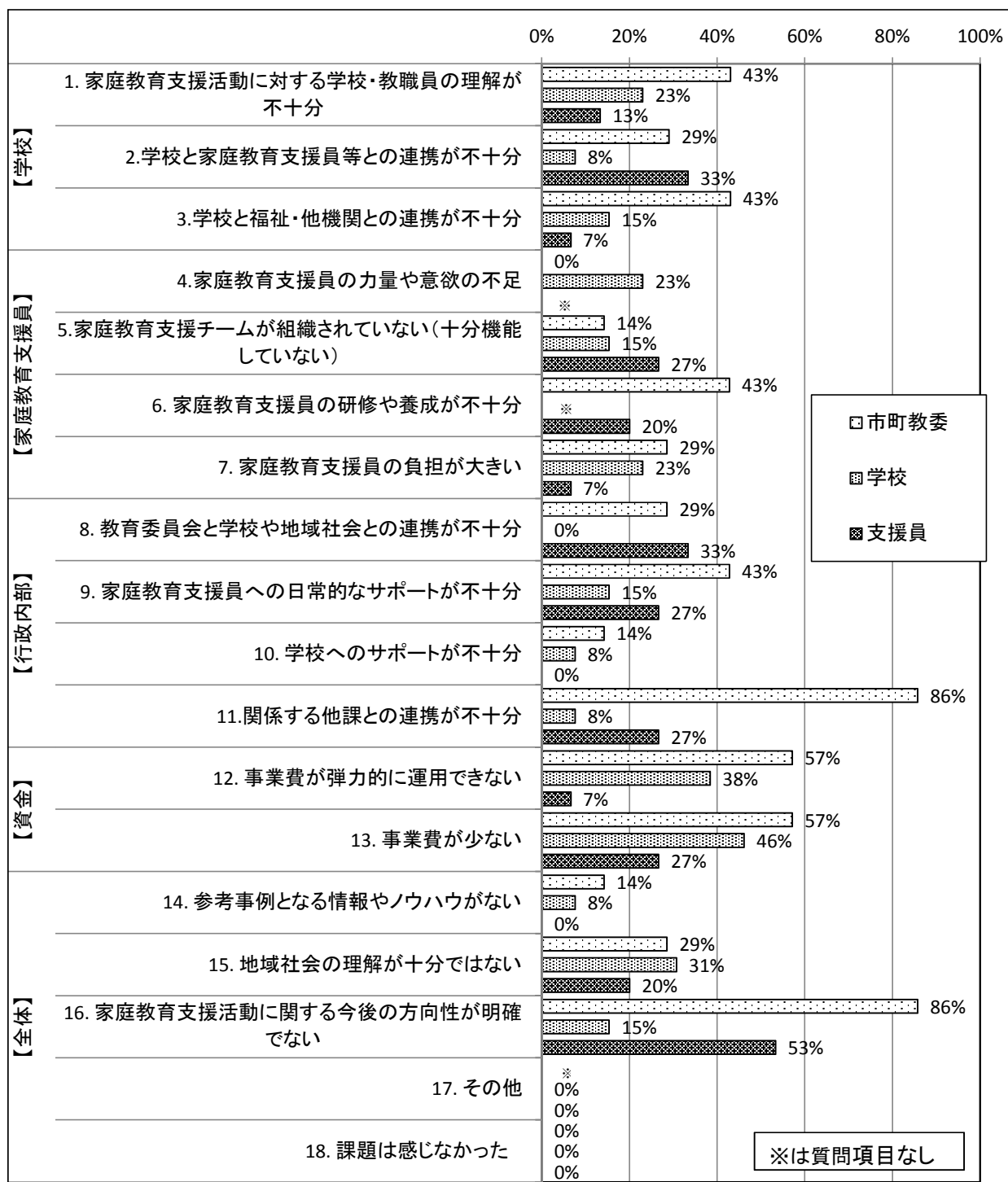
【家庭教育支援員】

・親が見せない家庭状況や、放課後に孫を預かる、朝送り出すことを担っている祖父母からの相談や不安を耳にする。知り得た情報を学校に伝えることで、子どもの家庭環境へのアプローチの手助けになることもある。

(4) 教職員の負担軽減



問3. 家庭教育支援を実施する上の課題は何ですか（複数回答）



自由記述

【市町教委】

・各種講座ではスマホ利用などの時事的な家庭教育問題から親子遊びまでさまざま行っているが、講座に参加しない層へのアプローチについてさらに広報活動が必要であると考えます。

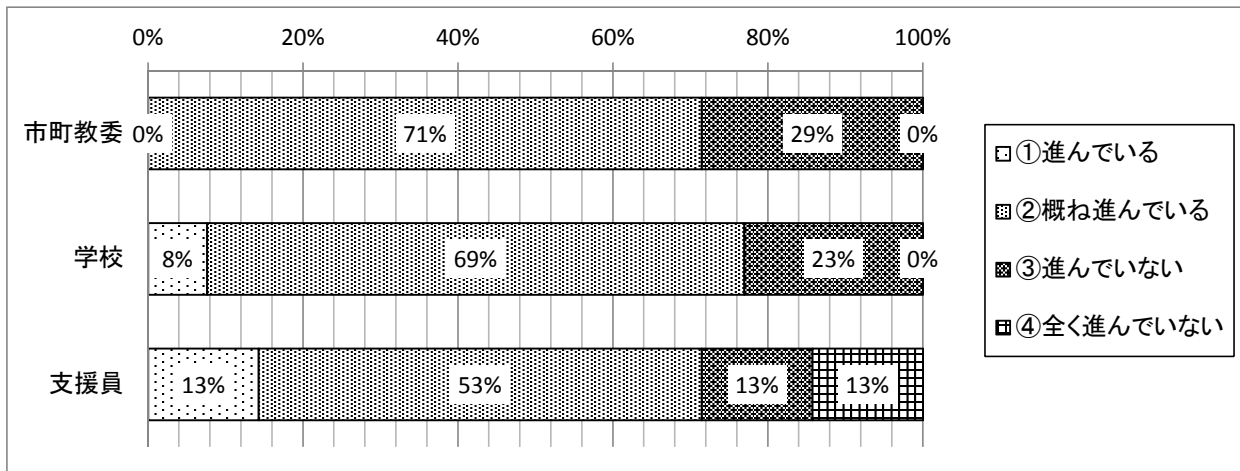
【学校】

・保護者同士のつながりがあまりなく、子育ての悩みを気軽に相談できる場所がない孤立した保護者の方に、どのように寄り添えばよいか課題である。いろいろな企画をしても、時間的な余裕も含めて心に余裕がない家庭へのアプローチをどのようにするとよいか悩ましいところである。

【家庭教育支援員】

・支援チームを組織しているが、市との話し合いがちぐはぐで目先の事だけに交流し、中身と方法、活動の内容までチーム員が入りこめていない。

問4. 家庭教育支援は順調に進みましたか。



自由記述

【市町教委】

・家庭教育支援員を配置している学校単位では、情報交換会や「子育てサロン」の実施方法や内容にも、少しずつ工夫や進展が見られる。一方、市としてこの家庭教育支援をどのような方向で進めていくかを模索するばかりである。他課との連携や家庭支援員に何を求めるかなど、整理していく課題が多い。また、学校現場で家庭支援員がうまく機能するようなつなぎ、学校以外の場所での相談活動をするための地域の公共施設とのつなぎなどを進める必要がある。

【学校】

保護者同士のコミュニケーションづくりに効果があった。

子育てサロン(おしゃべりカフェ)を実施し3年目になり、いろいろな教員と話すことを楽しみにされる保護者も増えてきた。また、日常でも、学校へ気軽に相談にこられる保護者が増えている。主任児童委員やコミセン職員と連携することで、虐待が心配される家庭の見守りのネットワークが広がった。

【家庭教育支援員】

・学校より課題や問題提起などの御相談も声かけしていただき、支援員をお受けして生きがいを感じさせてもらっています。

・相談や語らいに来られる方は、ほぼ同じですが、その場でいろいろなことを話され、少しはスッキリとして帰宅されるので、順調に進んでいるのだと思います。

・支援員が毎日学校に来ていることで、子どもに寄り添うことから支援に変わるケースも多く学校とも早い段階で情報を共有し共通理解の上で個別の支援ができている。児童が順調に登校できている時でも、こまめな連絡など支援の継続が必要である。小学校の学習支援、学童保育指導員、中学校の地域コーディネーターを兼務することで、どの仕事にもプラスになるように心がけている。

・長期間にわたる保護者、子どもとの関わりで確実に信頼関係が構築できている。また、学校とも連携できている。個別対応しているので相談件数も増えている。様々なケースに対応しているため、現在の家庭教育支援の事業費だけでは十分な活動ができなくなってきている。